



平成29年度がスタートしました

校長 尾後貫 智

アムステルダムに春が到来しました。保護者の皆様におかれましては益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

本年度も昨年度に引き続き本校の校長を務めさせていただきます尾後貫智（おごぬきさとし）です。微力ながら、子どもたちが充実した楽しい学校生活を過ごせるよう、全職員で力を合わせて努力してまいります。

さて、本校では今年度の基本理念・学校教育目標を以下のように定めました。教科の学習をはじめ、道徳や特別活動、学校行事など、充実した教育活動を目指しますので、保護者の皆様のご理解・ご協力をよろしくお願いします。

学校教育は何と言っても家庭と学校の信頼の絆が基盤になります。強い信頼関係を築くため、本年度もアムステルダム日本人学校は、保護者の皆様にいつでも扉を開いております。海外にある日本人学校の特質を生かしながら、保護者の皆様や日本人社会の期待に応える信頼された学校作りを、全職員が一丸となって誠心誠意努力する所存ですので、小さなことでも遠慮なくご相談ください。

#### 学校教育目標

児童一人一人の可能性を伸ばし、明るい未来を創り出す国際人としての  
基礎を培い、オランダに生きる規律ある児童生徒を育成する

#### 校訓

強く 明るく 豊かに

#### 重点

- ・基礎基本の定着と学力の向上
- ・礼儀正しい子どもの育成
- ・国際社会に通用する子どもの育成
- ・家庭との連携

#### 【始業式で子どもたちに話したこと】

今日から平成29年度がスタートしました。進級おめでとうございます。新しい学年を迎えて新たな気持ちで今日を迎えたことと思います。みなさんはどんな気持ちで学校に来ましたか。わくわくしながら来た人、ちょっぴり不安な人、様々だと思います。

今日は大事な出会いの日です。新しくいらっしゃった先生方と出会う日です。転入してきた新しい友達と出会う日です。また、これから1年間お世話になる担任の先生と出会う日でもあります。そう考えると、今日はたくさんの出会いがある日ですね。今日の出会いを大切に1年間ともに過ごしていけたらよいと思います。

さてみなさん、アムステルダム日本人学校には「校訓」があります。校訓とは学校が定めている教育に関する目標や方針などをわかりやすく一つの言葉にしたものを言います。どんな校訓があるか知っていますか。「強く 明るく 豊かに」というものです。スタートの日なのでこの話をしたい

と思います。一概に強さといってもいろいろな考え方やとらえ方があると思います。明るさや豊かさについても同じです。その中でも校長先生が皆さんに大事にしてほしいと思うことについて話します。

**強く(強さ)** 自分の決めたためあてに向かってくじけず努力することだと思います。また勇気を持って新しいことに挑戦する心のことではないかと思います。そのような強さを持って学校生活に取り組むことがみなさんの大きな成長につながっていくことは間違いないと思います。

**明るく(明るさ)** 私にとっての明るさは、いつも笑顔と前向きな態度を持つことだと思います。いつも笑顔を絶やさない人のまわりには、必ず多くの人が集まるものです。また明るい人は、物事を前向きにポジティブにとらえて行動できる人です。そのようにできる人は多少のことでくじけることなくみんなを励ましていけるとと思います。そういう人はまわりの人が放っておきません。

**豊かに(豊かさ)** 心の豊かさを指している言葉だと思います。豊かな心とは、いろいろな人の思いを感じることができることであったり、思いやりを持ってまわりの人に接することができることであったりすると思います。自分の損得でしか考えられないような人であっては、豊かな心を持っているとは言えません。心が豊かでないと、人は幸せを感じることはできないものです。

以上本校の校訓「強く、明るく、豊かに」についてみなさんにこうなってほしいと思っている話をしました。この三つのことは、これから始まる学校生活の様々な場面で心の片隅にとめておいて意識して行ってほしいと思います。(以下省略)

## 「打たれ弱さ」「自信のなさ」の克服について考える！

一時期「草食系男子」という言葉が流布・認知され、そういう男性が増えてきているように言われました。人間、大勢いれば、当然、「草食系男子」ばかりでなく、「肉食系女子(?)」といった、いろいろなタイプの人が出て当たり前です。

問題は、男女に関係なく、「自分に自信がもてない」「人に少しきついことを言われると、すぐ落ち込んでしまう」など、やや打たれ弱い子どもが多くなってきていることです。繊細で心配りができることはすばらしいことです。しかし、それに負けて、本来自分のもっているよい素質が発揮できないとしたら、これはとてももったいないことで、親はもちろんのこと、本人もつらいことだと思います。

人間は、もって生まれた気質はそう簡単に変えることはできませんが、習性は、その後の教育や自分の努力でどうにでもなることは、大勢の子どもたちを見てきて、そう思います。もって生まれた気質や能力で人生が決まってしまうなら、教育は成り立ちません。

では、どうしたらよいか。方法・考えを述べてみたいと思います。

- ①自分が努力すれば克服できるレベルのこと(家事も含めて)を、教師や親が段階的に用意し、それを乗り越える体験をなるべく多くさせ、成功感を味わわせ自信をもたせること
- ②子どもがもっている能力や性格をよく見極め、できないところを指摘しダメ出しするのではなく、素質を伸ばすためのアドバイスや指導をすること(人をよく育てるために、「ほめて、励まし抜け」が極意です)
- ③異なるタイプの人とのコミュニケーションをとる機会を多くもち、臨機応変に対応できる力を徐々に養うこと

「日本の子どもたちは、外国の子どもたちに比べ、自己肯定感や自尊感情の低い子どもが多い」という結果が出ています。日本の将来を担う子どもたちですので、激動する国際社会で右往左往しない、骨太で気骨のある人間に育て上げなければなりません。それが私たち大人の責務だと思います。